

ICT を活用した学習場面

A1 教師による教材の提示, C1 発表や話し合い

体育科	5年2組 丸小野 聡暢
単元名 ボール運動 ゴール型バスケットボール (3/7)	
本時のねらい: ボールを受ける動き方について, 兄弟チームで画像を確認してお互いにアドバイスしたり教師がゲームを止めた際にパスのもらい方について考えたりすることを通して, ボールを持っている人の近くに移動したりマークを外す動きをしたりして, パスを受けることができるようになる。	
評価規準: ボールを受ける動き方について, ボールを持っている人の近くに移動したりマークを外す動きをしたりして, パスを受けている。【知識・技能】	

指導の流れ

児童の活動 (ICT 活用の様子)・ICT 活用のねらいや留意点

1. 本時の動きにつながるサーキット運動をする。
2. 本時でめざす動き方をいくつか画像で確認して試合を行う。
 - ・前時の振り返りで出された, 本時のゴールの姿である「パスをもらうための動き方」を考えられる場面を見せ, どのように動けばよいか考えられるようにする。切り取った場면을大画面に写し, 児童がロイロノートに「パスをもらうための動き方」を書き込み, 視覚的に分かるようにする。ロイロノートを活用することで, 画像に簡単に書き込み, 視覚化して全体で共有することができるようにする。(場面①)
3. 試合のハーフタイムに, 兄弟チームで撮影し合った前半の試合の画像をもとに, パスをもらうための動きについて話し合い, 再度試合を行う。
 - ・ハーフタイムの話し合いの時に, 自分たちの動きを撮影した画像を見ることで, 客観的に自分の動きを捉えることができる。画像を使用することで, 話し合いが抽象的ではなく, 「パスをもらうための動き方」について具体の姿から考え, 的確にアドバイスを行うことができる。(場面②)

ICT の活用場面①



ICT の活用場面②



ICT 活用の効果 (困りが解決されたか)

成果: 体育科において, 児童に思考を働かせながら知識・技能を身に付けさせるためには, 自分自身の動きと比べるモデルと, 自分自身の動きを客観的に捉えるための方法が必要である。それらを解決するために, 本時ではめあての提示 (場面①) と話し合い活動 (場面②) で ICT を活用した。場面①では, 本時のゴールの姿 (モデルとなる動き) を全体で共有した。場面②では, 自分自身の動きを客観的に捉え, 本時の課題解決につなげることができた。体育科では, 本時の動きについて, 言葉で伝えることも重要であるが, それ以上に映像を使うことで解決されることが多いのも事実である。特に, 運動が苦手な児童にとっては, 自分の動きを客観的に捉えることが難しい。ICT を活用することで, 短時間でゴールを全体で共有できたり, 話し合いが抽象的にならず, 自分たち具体の姿から課題解決につなげたりすることができた。

課題: 撮影技術が未熟であると意図した場面が取れない場合がある。また, 何枚か撮影したときに, 話し合いで使いたい場面を探すのに時間がかかることがある。